

子育て支援について



中右 憲利 議員
(21 政会)

問 民間企業では半年も産休、育休をとると実質的に会社の中で居場所がなくなるのが現実だが、ゼロ歳児保育の現状と対策について伺いたい。

答 現在、加西市では37名のゼロ歳児を預かっています。4月時点での待機児童は0人ですが、年度途中からの受け入れは困難になります。その理由として、ゼロ歳児には3人に対して1人の保育士が必要なこと、加西市には古い施設が多く、現状では乳児室の部屋数や面積が足りないと

いうことがあります。

今後新たなこども園として施設を建て替え、園の統合によって保育士を集約することで、この問題の解決を図っていきたいと考えています。

問 それでは時間がかかり過ぎると思う。早急に解決する方法は検討できないか。

答 現在、校区を超えて定員や人数に余裕のある私立園で受け入れをお願いしていますが、いずれ各園も受け入れできなくなる可能性があります。そうなりますと新制度に基づき、既存施設とは別に事業者を募って、小規模園、家庭的保育事業を行うことも検討していきたくて思っております。

問 全く新規の事業者では預ける方も不安だと思う。今ゼロ歳児等の受け入れが十分でないのであれば、市がアスティアとか

福祉会館とかを提供して、市内の民間保育園に委託する、あるいは市が直接運営してゼロ歳児、あるいは1、2歳児ぐらまでの低年齢児専用保育室を設ける事はできないか。

答 預けるのに便利な公共スペースを確保した上で、低年齢児のための保育や一時保育、子育ての窓口業務を行うことは十分考えられます。ただ場所、施設の選定、直営か委託かの方法、また児童館などの関連もあります。今後様々な可能性を検討してまいります。

■その他の質問事項

- ・基幹道路、特に県道の整備について
- ・新興住宅について
- ・鶉野地区都市再生整備計画について

下里地区にコミバスを！



松尾 幸宏 議員
(自民の風・誠真会)

問 26年3月に公共交通総合連携計画が策定され、「市民のための公共交通のあり方」とのテーマで加西市春ミーティングも開催されたところだが、どのような意見が出たのか。

答 利用・経営状況の確認やコミバスの便数が少ないなど、サービス水準へのご意見をいただきました。コミバス運行のない地区では、高齢者の通院・買物への移動手段を確保してほしいとの意見があり、下里地区では北条

鉄道の駅へのアクセスのためのデマンドバス・デマンドタクシーを走らせられないかといった具体的な意見もありました。

問 市として加西市公共交通の将来像をどう考えているか。

答 北条鉄道・路線バス・コミバスねっぴ〜号を市内交通の軸とし、現行サービスが行き届いていないエリアに対しては、北条鉄道の駅や路線バス・コミバスのバス停へのアクセスを可能にする、新たな公共交通（フィーダー交通）の導入を目指しており、将来も持続可能とするためには、地域の方を主体とする協力体制が必要と考えています。

また、乗り換えが必要なことから、「時間がかかってもゆっくりと公共交通を利用する」というラ

イフスタイルの見直しもあわせて必要かと考えます。

問 地域主体型公共交通には様々な形態があり、利用者がいないと市街地を走るねっぴ〜号のような非効率な運行になってしまう。検証を重ね、まず、下里地区で成功モデルをつくるのができれば、順次公共交通の空白地帯に広げていけると考えるが、市としてどのような支援がお願いできるのか。

答 地域主体型フィーダー交通を市内全域で実施すれば、北条鉄道・神姫バスの路線利用も当然ふえ、公共交通網の持続性が高まっていくと思っています。市としては運営に必要な資材や運営費を負担し、ふるさと創造会議の発展も考えながら、進めて行っていただきたいと考えています。